

1月学校集会 「あげる」ではなく、させて「いただく」

3年生は私立推薦入試を間近に控え、面接練習に励んでいる中、意識して丁寧な言葉遣いを心掛けている人も多いことでしょう。また、1, 2年生はフィールドワークや体験学習を終えて、時と場合に応じた言葉遣いをすることの難しさを痛感している人もいます。そんな中今日は、言葉の使い方に気をつけることで、伝わり方が違ってくればかりか、あなた自身が美しく変わっていくという例を紹介します。

みなさんは、人に対して何かをする場合、なんと表現しますか。例えば、困っている人がいたら、「助けてあげる」とか「教えてあげる」なんて言い方をよくしますね。この地方では、人に対して「助けてあげやあ」「教えてあげやあ」、さらには「助けたりやあ」「教えたりやあ」なんて言葉も私たちは、時として使っています。

この、～して「あげる」という言い方について、みなさんはどう感じますか？

確かに、困っている人は、助けて「もらう」側ですし、助ける方は援助を、して「あげる」側です。しかし、～して「あげる」という言い方は、上から目線で、えらぶってる（偉そうにしている）ように感じられるという人もいます。もちろん、師匠と弟子の関係ならば、もっとはっきりと、師匠が教えて「やる」でも、教えられる弟子の側は納得するでしょう。けれども、相手が頼んでもいない場合に、「助けてあげましょう」「教えてあげよう」と言われたら、親切の押し売りみたいで、嫌な気分になる人がいるかもしれません。それどころか、せっかくのあなたの誠意が伝わらない可能性だってあります。

人に対して何かをする場合の表現、言葉の使い方について、次のような説明があります。

～して「あげる」という言葉を使っていると、人にあげてばかりだから、いずれ自分が空っぽになってしまうというのです。（「さしあげる」と丁寧に言っても、あげることに変わりはありません）

では、どうすればいいのでしょうか？ 説明にはこうありました。

あげる、んじゃなく、もらっちゃいなさい、いただきちゃいなさい、と。

つまり、～して「あげる」の代わりに、～させて「いただく」、～やらせて「もらう」という言葉です。私がさせていただきます、僕がやらせてもらいます。という具合に使います。いただく、もらうことによって、自分がどんどん豊かになっていくという感覚です。

実際、人のために何かをするということは、自分のためにもなるものです。

例えば、自分では分かっている、できるつもりでいたことが、いざ人に教えることになると、案外難しく、十分理解をしてないとうまくいかない場合がよくあります。人のためにすることが、ありがたいことに、自分のはっきりした理解や技術の向上、新たな発見などにつながっていきます。

また、古来、情けは人の為ならず、という言葉が日本にはあります。これは、人に親切にすると、保証はないけれど、巡り巡っていつか、あなたが親切にした恩恵を誰かから受けるものだということわざです。見返りを求めず、地道に人に親切にすることで、自分が磨かれ、誰彼ともなく自然に助けてもらえる人になっていくというのです。

人のために親切にできる自分に感謝して、あげるではなく、させていただく、という言葉が使えるようになるといいですね。

若いみなさんの中には、させていただく、という言い方が恥ずかしい、まだ無理、という人も多いと思います。

そんな時は、させていただきますという思いを込めて、私がしましょう。僕がします。という言い方にしてはどうでしょうか。とてもスマートな言い方だと思います。

今日は、校訓の「誠実」にも関わる、言葉ひとつが人を知らず知らずのうちに変えていくという例についてお話ししました。

（石原正教）